

7. その他

今回の検討では、特に焦点となっている治水対策について、流域委員会と整備局の間で議論があった点を中心に、検証を行ってきた。市町村からはこの他にも検討の対象に加えるよう要望された項目があるが、全ての問題を独自に取り上げるのは時間的にも能力的にも不可能である。このため、以下の点については提供を受けた資料等を整理して提示することとしたい。

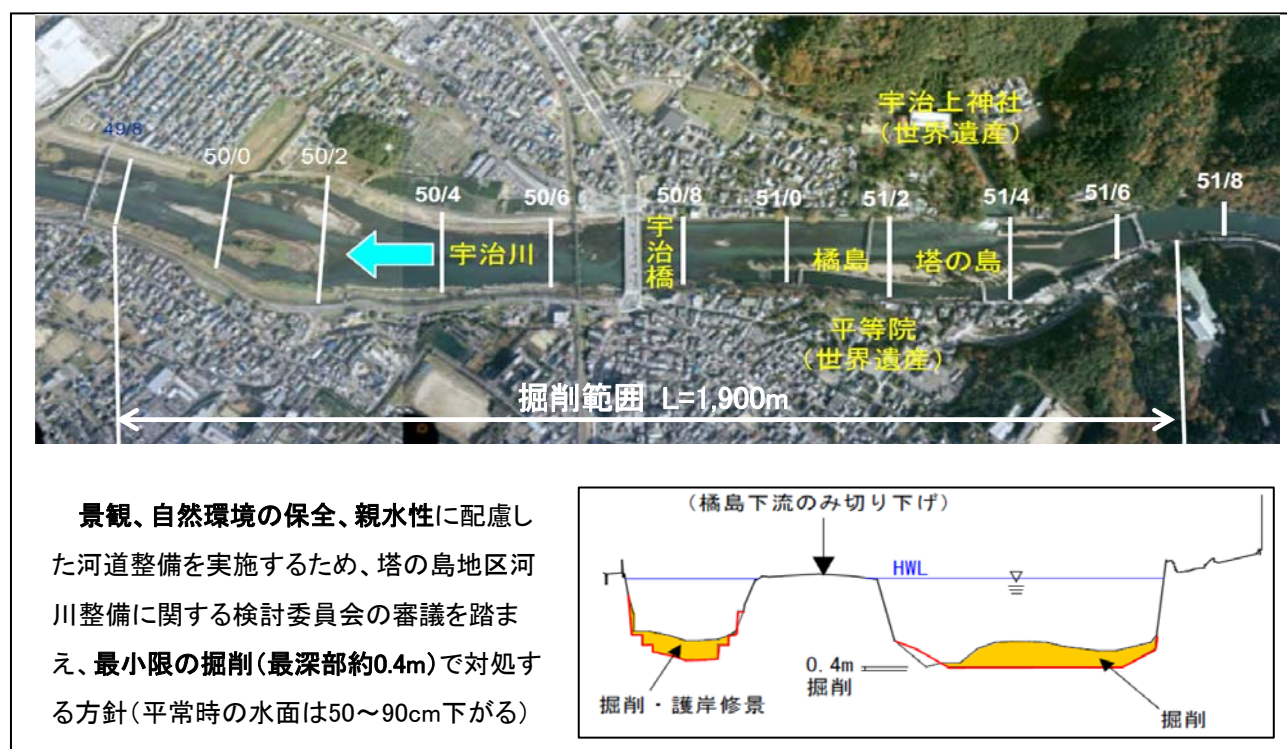
(1)環境

整備計画において環境を考える場合、環境だけを絶対視したり、反対に治水だけを絶対視したりするのではなく、両者をバランス良く相対化して捉えるべきと考える。

塔の島地区においては、絶滅危惧種であるナカセコカワニナの良好な生息条件を確保するため、緩傾斜河岸による河岸整備を行う計画である（図-45、図-46）。

また、周辺地区は世界遺産平等院や宇治上神社をはじめとした歴史的文化遺産が点在し、宇治川を含めたその景観は周辺住民はもとより各地から訪れる観光客に親しまれていることから、景観に配慮し、空間の開放性を高め、多様な水際線をつくり、人工的な構築物、工作物をできるだけ少なくする（図-47）。

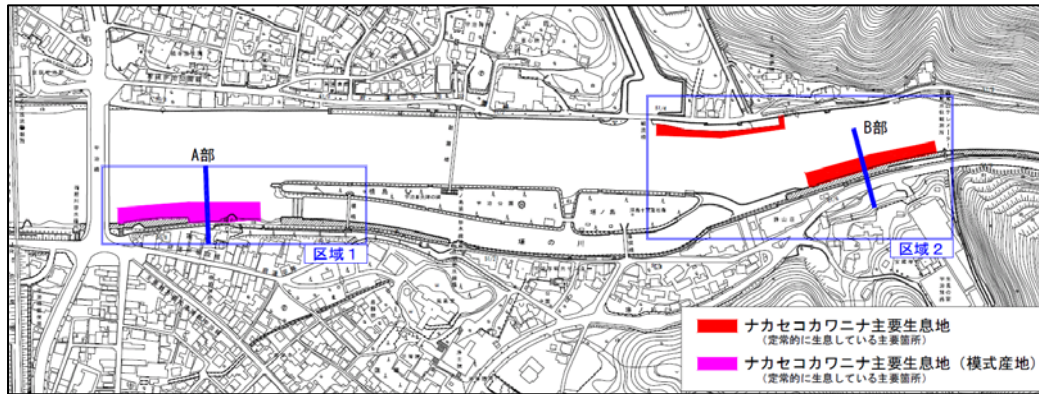
図-45 塔の島の整備方針



出典：第63回委員会 審議資料

図-46 自然環境の保全

【塔の島地区におけるナカセコカワニナ主要生息範囲図】



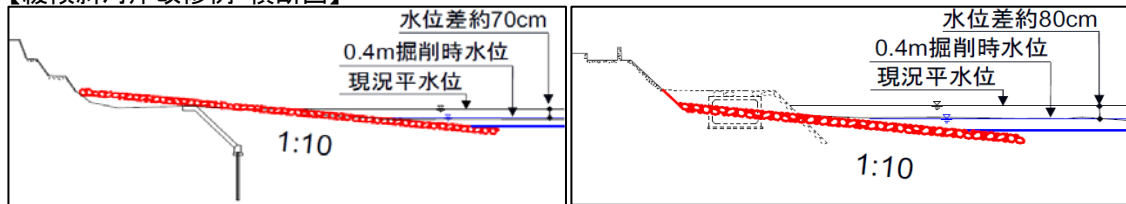
【ナカセコカワニナの良い生息条件】



- 水深：20cmから40cm
- 流速：0.2m/s～0.4m/s

出典：第63回委員会 審議資料

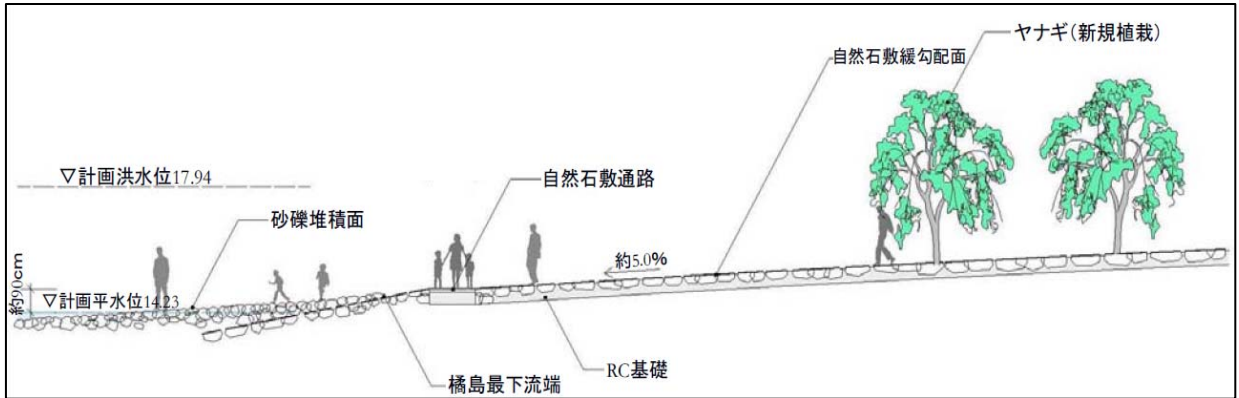
【緩傾斜河岸改修例 横断図】



模式産地部 (平面図A部)

主要生息地 (平面図B部)

図-47 景観への配慮



- 空間の開放性を高める
- 多様な水際線をつくる
- 人工的な建造物、工作物を出来るだけ少なくする。



出典：第64回委員会 審議資料

(2)地質

活断層調査（第四紀断層調査）の結果、天ヶ瀬ダムの下を通る活断層がないことを確認した。

トンネル掘削による周辺地盤への影響については、覆工厚を厚くするトンネル構造にしたり、トンネル周辺地盤を補強することにより、ダム本体を支えている地盤に影響のないように対処することが可能である（図-48）。

図-48 天ヶ瀬ダム再開発事業における地質調査について

